



市長 あけましておめでとうございます。全員 おめでとうございます。
市長 今日は、地域活動をリードするみなさんにお集まりいただきました。長岡のまちが将来にわたって元気で、市民生活を豊かなものにするため、私は安心して暮らせるま



中静 勝さん
希望が丘「安全安心ステーション」代表

小林礼子さん
表町「まちなかコミュニティ食堂」代表

山岸麻美さん
子育てサークル「おぐにママさんの会」運営

磯田達伸
長岡市長

木村勝一さん
「てらどまり若者会議～波音～」代表

市長 長岡の地域共生のまちづくりは、昭和63年に始まった「ともしび運動」(写真①)にさかのぼります。高齢者も若者も障害のある人も、全ての人の多様性を認め互いに支え合うコミュニティづくりを進めてきました。この流れを受け現在、各地域のコミュニティセンター(以下、コミセン)では市民が主体となって

長岡のまちに息づく 地域共生の心

ちの礎となる「地域のつながり」を強く太くしていきたいと思っています。市民同士はもちろん、市外から移り住む人も包み込み、多様な価値観を尊重しながら「つながり」をつくるのが、長岡のまちの未来を明るくものにします。長岡に住むと安心だ、快適だ、子育ても長岡で、という人が増えてくる。また、若者も長岡に帰ってきて就職するという流れも出てくるでしょう。地域に根差した活動で、住民のつながりづくりに取り組みみなさんから、活動に込める思いをお話しいただきたいと思っています。

市長 コミセンがまちなかのオアシスになっているんですね。
小林 はい。配食サービスは、住民による見守り活動も兼ねています。地域の高齢者や子どもをみんなで見守って、一緒に暮らしていきます。
山岸 母子保健推進員として、また、私自身4人の子どもの母親と

福祉サービスや子育て支援、文化活動、健康づくりなどが活発に行われています。
中静 希望が丘地区は、地域のことは地域でやろうという思いが第一にあります。コミセンを中心に学校、連合町内会など、地域全体が同じ方向で同じことを考え、力を出し合っていてこういうのが活動の基本です。
市長 まさに「ONE TEAM」。昨年活躍したラグビー日本代表のように、多様性が調和し、大きな力を発揮しているわけですね。
小林 表町地区は、ビルが建ち並びまちなかの地域です。ありがたいことに小学校とコミセン、児童館が一つに凝縮されていて、放課後子ども教室(写真②)や会食サービスなどに子どもからお年寄りまでたくさんの方が集い、交流しています。

地域の力が、 未来を創る

～市民が互いに支え合うまちへ～

価値観やライフスタイルの変化を背景として、都市圏を中心に地域のつながりが希薄化しつつある日本の社会。長岡市でも今後、人口減少や少子高齢化が進む中で、地域のつながりをどう保っていくかが大きな課題となってきます。2020年、次期長岡版総合戦略がスタートする節目の年に、地域活動をリードする市民のみなさんと共に、地域の力を活かして住民がつながる「地域共生」のまちづくりを考えます。



▲表町コミセンの放課後子ども教室で絵本の読み聞かせ(写真②)。小林さんが折り紙を教えることも



▲施設を訪れ、高齢者と触れ合う桂小学校の児童(昭和63年・ともしび運動。写真①)